

# IUHW

The gazette of the International University of Health and Welfare

第9号

発行：学校法人国際医療福祉大学  
編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線7115



▲  
与一まつり



作業療法学科2年  
サマーキャンプ  
「夏の日の1996」



▶  
弓道部



## = 目次 =

	ページ		ページ	
中国訪問	—高木理事長—	2	学科・センターだより	4
出来事		2	看護学科	4
学長の日程から		2	理学療法学科	4
大学来訪者		2	作業療法学科	5
カンボジアのフン・セン第二首相		2	言語聴覚障害学科	5
本学来訪		2	放射線・情報科学科	5
お知らせ		2	語学教育センター	5
入試事務室から		2	医学教育センター	5
学生部長から		3	教員紹介	5
学生室から		3	学生活動いろいろ	6
委員会報告		3	学生執行部行事企画委員会から	6
学生部		3	那須野ヶ原青年会議所員との夕べ	6
教務委員会		3	バレーボール部	6
国際交流委員会		3	弓道部	6
紀要委員会		4	創華部	6
情報化委員会		4	山岳スキー部	6
図書館受入図書		4	野球部	6
報告		4	与一まつりに学生(留学生)参加	6
英語公開講座開講		4	リレーエッセイ	6
			編集後記	6



## 中国訪問

## — 高木理事長 —

7月1日から5日までの5日間、丸山理学療法学科長、杉原作業療法学科長とともに、中国北京市を訪れました。北京市は大陸性気候の影響を受け、春には猛烈な砂嵐（黄砂）が吹き、夏には東京以上に高温多湿になります。市内はまさに再開発の途上にあり、高層ビルの建設、高速道路など近代都市の様相を徐々にみせるようになっていました。

今回は中国全土の厚生行政を司る中国衛生部の他、中日友好病院、中国リハビリテーション研究センターを訪れました。中日友好病院は日本政府の無償資金援助により、衛生部直轄の病院として1984年に設立され、現在1300床、3000名の職員が従事し、中国の現代医療の基地としての役割を担っています。中国リハビリテーション研究センターは、中国における近代的・総合的リハビリテーション技術の確立を目指し設立された施設で、設立時には本学の作業療法学科の杉原先生、矢谷先生、古川先生も専門家として中国に渡り指導にあたりました。現在、400床、400名の職員を抱え、中国最大級のリハビリ研究センターとして位置づけられています。

これらの施設において、当大学への留学生の受け入れの他、3カ月くらいの短期間で研修生を受け入れ、リハビリテーションについて学んでいただくプロジェクト、通信衛星を使って中国に大学の講義模様を配信し、中国におけるコメディカル分野の人材育成に貢献するプロジェクト等の検討を精力的に行っており、2度目の中国側との打ち合わせだったわけですが、特に日本からのソフト面の援助、例えば、カリキュラム設計や教育の質を高める知恵といったものに強く興味を持っておられ、共にコメディカル分野に従事する国境の向こうの仲間達の熱意を再度実感しました。

王気漂う1000年の都北京で悠久の歴史にふれながら、今後、私どもの大学、そして将来の卒業生たちが、アジア全体のコメディカル分野の発展の牽引役として貢献し、さらには日中友好関係の橋渡し役となる日が来るのを願い、中国をあとにしました。



## 出来事

## ◇学長の日程から

\*平成8年6月19日（水）

栃木県がん集検協議会講演

\*平成8年6月24日（月）

ハートピアきつれ川開所記念式典出席

\*平成8年7月5日（金）

日本私立看護大学協会理事会・総会出席

\*平成8年9月14日（土）

大田原市成人大学講演

\*平成8年9月27日（金）

滋賀医科大学倫理委員会講演

## ◇大学来訪者

\*平成8年6月26日（水）

北関東三県高齢福祉担当課長5名

\*平成8年7月3日（水）

建設省 有安専門官他20名

\*平成8年7月13日（土）

カンボジア王国 フン・セン第二首相

\*平成8年7月27日（土）

沖縄県 環境保健部長他2名

\*平成8年8月20日（火）

栃木県 渡辺文雄知事

## ◇フン・セン カンボジア第二首相来訪

カンボジア支援国会合に出席するために来日したフン・セン第二首相が7月13日、故渡辺美智雄元副総理の



墓参りの後で本学を来訪しました。フン・セン第二首相は、カンボジア和平に尽力した故渡辺氏を「日本での父親」と慕っていました。来学したフン・セン第二首相、学長や渡辺喜美氏と会食後、施設を見学。熱心に学長の説明に聞き入り、「カンボジアからも留学生を受け入れてください」と話していました。見学の際には、気さくに学生に声をかけ交流する一幕も見られました。

## お知らせ

## ◇入試事務室から

大好評でした。大学説明会！

夏休みに開催された大学説明会には7/27（土）450名、31（水）280名、8/31（土）500名もの受験生が全国から（遠くは青森、四国、九州などからも）本学を訪れました。

ご協力くださった学生の皆様、ありがとうございました。当日、回収したアンケートによると、「大学の先生も、学生さんたちも親切な方々ばかりで入学後も気持ちよく学生生活が送れそう。学園祭にはぜひ来たい。」「今日の説明会に来て“ここしかない”と思ったすばらしい理学療法士になる自信があるのでどうか入れてください。」など、受験生の熱意が感じられました。

## ◇学生部長より

自家用車・バイク通学者は必ず駐車許可登録を

夏期休暇が終わり、いよいよ後期の授業が始まりました。休暇中に自動車・バイクの免許を取得し、後期から通学にこれらの車両を利用する皆さんも多いことと思います。本学では、学生が通学等のために自動車、バイクを学内に乗り入れる場合は、所定の駐車許可登録を行うこととしています。登録の促進は、これまでも再三呼びかけていきたいところですが、後期より乗り入れを始めた皆さんも、早期に登録を行うよう改めてお知らせします。

本学は、那須連山のふもとに立地し、地元大田原市から提供いただいた広大な敷地を有するために、当初から学生用の駐車場も確保し、自家用車・バイクを利用する皆さんの便宜を図ってきました。駐車場運営のため導入している「登録制」は、学生による交通事故の際の迅速な対応や学外からの無断駐車阻止など、学内秩序の確保のために必要な処置です。許可証の発行にあたっては所定の登録手数料を徴収し、駐車場の造成、街灯の設置や舗装工事（計画）などの整備に充てていますが、駐車場整備の費用全体から見ればごく一部であり、もとよりほとんどは大学の負担により整備されています。

また、学生用駐車場は約1,000台分の駐車容量を有していますが、現在の利用者数から見て来年度中にも満杯となり、すべての申請に登録を認めるのが不可能となることが予想されます。こうした事態に備え、正規に駐車許可登録している学生や、公共交通を利用している学生との公平を図る意味でも、駐車場を利用する学生全員が、登録をすべきである。というのが本学の見解です。

以上のような観点から、不正に利用する学生に対しては、今後、厳しい措置をもって臨む方針です。通学中や学内での事故に際しては、正規登録者と比べより厳しい処分を臨むのはもちろん、駐車許可登録の拒否や学生証の発行停止を含めた学内事務手続きの停止など不利益を被ることも、学内秩序維持のうえからやむを得ないと考えています。

なお、本学では、学生の交通の便確保のため大田原市役所等のご協力をいただいてバス便の充実を力を入れており、現状でも授業を受けるのに支障がないだけの運行本数・時間が確保されています。さらに、学内バス停に待合室を設置したり、運転間隔の短縮や最終便の時間繰り下げ、運賃の値下げをバス会社等に要望するなど、利便性の向上にも努力しています。本学としては、本学に乗り入れる唯一の公共交通機関であるバスを学生の交通手段の基本と考えており、通学の足としての車両が必要不可欠の学生以外は、極力バスを利用してください。

本学では、今後とも交通安全教育の徹底と併せて、駐車場・駐輪場やバスターミナル等の設備拡充および利用適正化に努める方針です。学生および皆さんのご理解、ご協力をお願いします。

## ◇学生室から

通学の不安、ひとつ解消へ

— 3・3・1号線に街灯設置 —

主に自転車通学の皆さんから「暗い」「こわい」という声が出ていた、都市計画道路3・3・1号線の切り通し（大田原市中田原）にこのほど水銀灯3基が設置されました。

設置された所は、同道路の「旭橋」東側の切り通し。開学当初から「自転車通学時にとっても不安」という声が出ていましたが、近くに電線が通っていないことから、「設置は困難」とされていました。しかし、大田原市役所が「何とか学生の声にこたえてあげたい」とご尽力してくださり、実現にこぎつけたものです。

街灯の設置については、他にも要望の出ている場所がありますが、道路の整備計画や近隣の住民との調整などが必要なため、同市役所では「実現可能なところから徐々に整備していきたい」と話しています。

## 委員会報告

## ◇学生部報告

- 1) 学生健康診断実施される（マロニエ医院にて）。未受診者55名
- 2) 部室の決定（21室）と各部費（全体で約300万）の決定
- 3) 大学祭（風花祭）10月26、27日開催の調整
- 4) 交通安全教室開催10月15日  
交通事故が多発しています。安全運転に気をつけましょう。学内は時速20km以内です。
- 5) カレッジフォーラム（県知事との話し合い）
- 6) 精神保健相談室が予約制で開室。三浦医師担当。
- 7) 自家用車・バイク通学者は必ず駐車許可証登録を。

## ◇教務委員会

臨床実習の体験を大切に

保健学部5学科は、教育課程上臨床実習が必修科目として位置づけられています。学科により単位数及び時間数は異なるが、いずれにしても、いわゆる大学で学ぶ教科と臨床の場（病院、施設等）で学ぶ臨床実習を効果的に絡み合わせる実学教育として共通しています。本大学におけるこの臨床実習に関する課題は、臨床実習の場の確保であろう。どの学科も学生数が多いことから実習施設確保には相当の工夫が必要とされます。学生諸氏はこのことを頭において、臨床実習を大切に、教科との絡み合いを積極的に探るようお願いいたします。

## ◇国際交流委員会

- 1) 栃木県地域留学生交流推進協議会総会が6月28日開催され、田中（美）と佐藤委員が出席しました。
- 2) 留学生教育学会発足大会が7月13日開催され、藤沢委員が出席しました。
- 3) 大田原在住の外国人英語教師、学生の情報を集めることが提案され、今後具体的に検討することになりました。
- 4) 大学祭への「映画上映」推薦依頼が当委員会にあり、持ちまわりで内容を検討することになりました。
- 5) 委員会、7月3日（水）、7月29日（月）

## ◇紀要委員会

平成8年度の第3回紀要委員会を6月18日(火)、第4回を7月9日(火)、第5回を8月6日(火)、第6回を9月17日(火)に開催いたしました。この間、平成7年度紀要第1巻の編集作業を行うとともに、最終的な印刷製本の形式、発行部数等を検討いたしました。巻号の付け方も討論の結果、最終的に巻立てに決定いたしました。また、既にご案内の通り平成8年度紀要第2巻の準備を始めております。5月の論文投稿希望調査につづいて、9月に投稿者の確認作業を行っております。原稿提出の締切日を10月31日としておりますので、執筆者各位のご協力をお願いいたします。

## ◇情報化委員会

学内LANシステムについて理事長の承認を頂いたを受けて第3回の情報化委員会を平成8年6月14日に開催しました。本学学内LANシステムは、(1)研究・教育システム (2)事務システム (3)インターネット (4)図書システム の四つの機能を満たすシステムとなっていることの報告と確認、導入機器及び機能の詳細説明と委員会としての承認、導入スケジュール案の検討と承認を得ました。導入スケジュールの概要は、9月迄にLAN敷設工事、インターネット接続、パソコン導入、事務システム開発、図書システム開発を終了し10月から稼働開始となっております。引き続き、インターネット利用法・パソコン操作教育・LANシステムの運用方法などを検討しております。

## ◇図書館受入図書

9月10日現在、寄贈図書についての受入は下記のとおりです。(順序は受入順)

溝口昭子様：現代アフリカ文学短編集1(1977)、その他  
三浦四郎衛様：精神科ポケット辞典(1981)、その他  
栃木県：栃木県衛生年報 平成6年度(1996)、その他  
生命エネルギー研究所：生命エネルギーの時代が来る(1995)、その他

日本社会事業大学：社会福祉教育と平田富太郎先生(1995)

橋本仁志様：金丸原飛行場(1995)

外務省：我が国の政府開発援助の実施状況(1996)、その他

柳澤正義様：小児の心身障害・疾患の予防と治療に関する研究(1996)

益子幹二様：正しい学問としての占い(1995)

中央法規：動きづくりのリハビリテーションマニュアル(1996)、その他

橋本勉生様：訪問看護ステーションにおける24時間対応型在宅ケアシステムのモデル事業(1996)、その他

飯高和成様：組織病理アトラス(1995)、その他

小西薫様：アクアサイズ教程1(1996)

産業調査会：マルチメディアを読むキーワード辞典(1996)

松田一郎様：生活環境が子どもの健康や心身の発達におよぼす影響に関する研究(1996)

大田原保健所：保健所概要 平成8年度版(1996)

多田裕様：周産期の医療システム情報管理に関する研

究(1996)

全国保健センター連合会：市町村における母子保健事業の効率的実施に関する研究(1996)

渋谷健様：Preclinical and clinical strategies for the treatment of neurodegenerative,……(1996)

大谷学長：らい予防法廃止の歴史(1996)、その他

三井速雄様：驚異の小宇宙 人体1～6(1989)

都築正和様：Clinical engineering 1→, その他

## 報 告

## ◇英語公開講座“English Evenings”開講

7月29日から3日間、午後6時から8時まで英語公開講座が開かれました。申込み受付開始2時間でキャンセル待ちが出るほど人気の高かった講座でした。女性の人数が多少上まりましたが、70才代の男性から小学生男子までの59名が胸を躍らせて「生きた英語」に取り組みました。親娘、夫婦、姉弟、友人揃っての参加もあり、和気あいあいの雰囲気が始まりました。初級と中級の2クラスに分かれ、英会話、LLでのVideo教材、そして英語にまつわる文化の講義を受け意欲満々で動きました。「あっという間の3日間でした」「是非長い期間開講して下さい」「楽しい授業で視野が広がりました」という声がたくさん寄せられました。最後はカフェテリアでのささやかなティーパーティでしたが、なごやかに楽しく英語でもりあがり、習いだての“Sing”を大合唱して別れを惜しましました。それぞれの動機、学力、立場の違いはあっても、英語を学ぶことの楽しさを十分に味わった3日間となり、次回への期待をこめて“See you soon”と声をかけ合いました。

## 学科・センターだより

## ◇看護学科

看護学科一年生、ただ今実習中!!

一年生は、9月24日～30日まで基礎看護実習に取り組んでいます。学生にとってこの実習は、初めての臨地実習で「学習の手引き」にあるように、地域をベースに広く保健医療サービス提供の場を体験し、看護者としての役割を認識することをめざしています。また、この実習は、入学後の学習をもとに人々の生活と健康問題を結びつけ、より具体的な学習にする上でも重要な意味をもっています。「実習を通してこそ看護者に育ち得る」という言葉をかみしめながら、学生にとって実り多い学習の機会にしたいと考えています。

## ◇理学療法学科

9月22、23日連休でした。

9月24、25日にハートピアきつれ川、栃木県身体障害医療福祉センター、多摩全生園、東京都多摩老人医療センターを見学に行き参りました。大変勉強になりました。9月26、27日は黒羽スプリングスにてキャンプを行いました。この時期は寒い・他に誰もいない・火なぞ炊いて良いのだろうか?という雰囲気の中、どうも教授兼学科長らしい御方が1升瓶(八海山)片手に大奮闘ノその他にもゲゲゲの鬼太郎、腕立て伏せ、数え歌、実家へ電話等々。大変恥恵でなく知恵がつかれました。

## ◇作業療法学科

夏休みと言うのに、前期の学業を挽回する者、バイトをして文化人として磨きかけた者、自主実習をした者ありと様々な作業療法学科の学生達。

9/9-13の5日間、1年生の臨床実習が行われ、無事修了。昨年は県内6カ所の施設・病院で学びましたが、今年は県内OTの協力により10カ所に増え、理想的な現場や現実的な現場での実習が体験でき、充実したものとなりました。初めての実習のためか緊張のあまりモーニングコールをかけられたというハプニングもありましたが、日を重ねる毎に学生の表情にゆとりが見られてきたのは、実習の成果でしょうか。臨床実習指導者の方々をはじめとする多くの方々的心から感謝!!

## ◇言語聴覚障害学科

キャンプだ、ホイッ!!

ホッとした者あり、がっかりした者ありの前期試験が終了した7月29日、30日、約50名が参加して、くろばねスプリングスでの1、2年合同キャンプが開催されました。レア状態の焼きそばや牛肉バーベキューの後、お待ちかねのキャンプファイヤー。城間先生の沖縄民謡指導や藤田先生のバレエ披露、山口君、池田君によるギター生演奏、平山君、天田君の管楽器演奏など盛りだくさんの内容でした。また、当日たまたまロケに来ていたナイナイに行くわすという場面もあり、大変エキサイティングな一夜でした。

## ◇放射線・情報科学科

前期も終わったところで当学科の懇話会を、2年生は7月24日(水)に大谷学長はじめ関係科目の先生方のご出席のもと焼き肉「いちげん」で、また、1年生は翌25日(木)に関係科目の先生方を交えて学生食堂でそれぞれ学年別に行いました。また、8月4日(日)にNHK「健康フェア」が栃木県立県北体育館で開催され、当学科もPRを兼ねて当大学の紹介ビデオや超音波機器のデモンストレーション、X線管、放射線機器の展示を行いました。大田原市長をはじめ市民約4000人が訪れ、大変な賑わいを見せました。水槽に泳ぐ金魚の動く超音波映像は解りやすく、多くの見学者の目を誘いました。

## ◇語学教育センター

"Medicine is a science, but caring is an art."

ニューヨークの地下鉄で見つけたヘルスケアの広告文です。"医学はサイエンス"はよいとして、後半の"ケアはartである"というのはどんな日本語にしたらいでしょうか? 辞書に出ている芸術とか技術ではあてはまりませんね。ダブス先生はartという言葉は、vision, wisdom, foresightを想起させると云われます。ケアを専門とする学生の皆さんはさしずめartist? ビックリ来る日本語を捜して下さい。careという名詞でなく動名詞のcaringが主語なのも意味が深そう。

## ◇医学教育センター

7月開催のセンター会議で、出席率の低下が話題になりました。自分が担当した他大学に比して出席率、

受講態度ともすこぶる良好であることから少々意外でした。一般論として、一、二期生は出席率が良く、学生数の増加と学友活動の活発化に伴い、出席率の低下傾向がみられます。本学は医大と異なり医系教員担当科目のコマ数は極端に少なく、講義はessential minor requirementな内容に絞られ、一回の欠席は学生にとり多大な損失になることから、将来深刻な問題とならぬよう今から対策に取り組む必要があるでしょう。

## 教員紹介

(毎号、各学科・センターから1名ずつご紹介頂きます。)

①所属・職位、②生年、③出身校、④専門分野、⑤直前の勤め先、⑥主要著書・論文、⑦本校における担当科目、⑧趣味。

## 飯高和成(いいたか かずなり)



①医学教育センター・教授、②昭和5年(1930年)11月3日、③日本大学医学部、④病理学(腎臓病理)⑤獨協医科大学(現非常勤・名誉教授)、⑥現代病理学大系15B、腎臓Ⅱ、⑦病理学[NS、OT、PT、ST、RT(次年度)]、⑧東洋蘭培養、ゴルフ(scoreは度外視)

## 相野田紀子(あいのだ のりこ)



①言語聴覚障害学科、教授、②1946年、③津田塾大学、④構音障害、⑤金沢医科大学耳鼻咽喉科学教室、⑥「口蓋裂の言語治療」(医学書院)、⑦小児の発声発語、⑧下手ながらバイオリン(バイオリニストの妹に習っています。)、体力・筋力トレーニング(転動前はスポーツジムに通っていましたので現在悩んでいます。なにしろ1に体力、2に知力をモットーとしていますので)。

## 田之上 司(たのうえ つかさ)



①放射線・情報科学科・教授、②1940年6月25日、③九州大学・理学部、④放射線計測、磁気共鳴イメージング、⑤東芝・医用機器技術研究所、⑥医療用センサの現状と動向(センサの標準化に関する調査研究)、⑦放射線計測学、同実験、放射線管理学(3年)、同実験(4年)、医用磁気共鳴論(3年)、物理学、(放射線機器工学実験)、⑧テニス(下手、卓球スタイル)、アーチェリー(的に当たらない)、史跡・資料館巡り。

## 西條富美代(さいじょう ふみよ)



①理学療法学科・助手、②1966年、③東京都立医療技術短期大学 理学療法学科、明治学院大学 社会学部社会学科、④介護者の負担について(特に福祉機器の利用)、⑤千葉県医療技術大学校、⑥姿勢と動作-作業姿勢と負担-、理学療法科学、10(3):127-134、1995、⑦身体運動学実習等、⑧興味のあること全て(現在は野菜作り?)

## 学生活動いろいろ

### ◇学生執行部行事企画委員会から

“風花祭”に向けて夏休みも終わり、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

さて、2年目にして初めての学祭を迎えようとしています。アンケートで学祭名を募集した結果“風花祭”に決定しました。この「風花」とは、冬に那須の山から吹いてくる風に乗って雪が花のように舞っている様子のことを言います。今回初めての学祭とあって、地域の人達との交流を深めるという考えから、この地域に関係し、また言葉の響きの良さで最終的に決定しました。この名称は来年、再来年と続いていきます。

学祭の企画はというと、全校生徒に応募した“天使の卵コンテスト”や地域の人達による“与一太鼓の演奏”“車椅子バスケット”“家田荘子さんの講演会”ダンスパーティなどがある“後夜祭”などを予定しています。1回目ということで不満な点もあると思いますが、楽しい学祭で終わるよう、皆で盛り上げていきましょう。

### ◇那須野ヶ原青年会議所員とのタベ

去る7月26日、鹿島ウェディングプラザで行なわれた青年会議所の月例会に私達学生代表8名が招かれました。青年会議所概要の説明を受けた後当大学に対する質問を受けましたが、皆さん開校当時から大変関心を寄せておられ、盛んな質疑応答となり、学生の住み良い街にしたいという意欲が伝わってきました。

### ◇バレーボール部

H8年度秋季関東大学女子13部バレーボールリーグ戦（鈴木美理キャプテン）女子17名約10チームで優勝（5勝0敗）。会場は群馬・高崎経済大（9/15～28）でした。春季より12部に昇格

### ◇弓道部

私たち弓道部は夏期休暇中、2つの大会に参加しました。そのうち日光中禅寺湖畔で行われた扇の的の大会には、精鋭5人が競技に名を連ねました。揺れる船上の的を射るという難しい競技でしたが、顧問・部長ともに的中し、湖畔を埋めた観客から拍手を浴びました。

### ◇創華部

Difficulty In Teaching Real Mind

—an international exchange record of “華道部” —  
We managed to have the first exchange party through IKEBANA with students of Asia Rural Institute on June 18th.

### ◇山岳スキー部

今年で創設2年目になりました。恒例行事の夏合宿は、昨年登頂できなかった白馬岳に再挑戦しました。今回は4日間とも天気に恵まれ、夜空に満天の星も見られました。登りでは標高2,400mあたりから軽い高山病患者も出ましたが、大事に至らず白馬岳山頂に立つことができました。

### ◇野球部

4～6月に行われた北関東大学軟式野球春季リーグ戦においては4勝2敗で惜しくも全国大会出場を逃したものの、現在行われている秋季リーグ戦では東日本大会出場を目指して……

9月27日現在 本学 2-1 白鷲大  
10-1 宇都宮大

と2連勝中ノ10月下旬まで毎週日曜・祝日に宇都宮市にある栃木銀行グラウンドにて熱戦が繰り広げられます。

### ◇与一まつりに学生（留学生）参加



## リレーエッセイ

お土地がら 作業療法学科 谷口 敬道  
そろそろ収穫も終わり、黄金色の絨毯から、所々ほつれ薄汚れた僕の家の絨毯の様になってきた。農業は農閑期をむかえる。冬支度。冬支度。

東京にいたら「自然」と自分を比較する事なんてしなかったけど、土地柄からか、歳をひとつ加えたからなのか、「周囲の自然」の営みと逆行している自分にふと気がつく。黄昏。黄昏。

そんな中、僕らの夏休みはとくに終わり、農閑期を横目に、自転車こいで、風に逆らって、「脳繁期」をむかえる。大田原の冬は特に寒いわけでもないから冬眠できないし。あきらめて、脳をつかおう。風が吹いてもバランスとれて、前進できるんだから小脳は発達しているはず。4年間もの通学の結果、大脳より小脳の方が大きくなる可能性がある。小脳のシナプス可塑性を信じて、小脳コンピュータのLANをつないで大脳になりかわろう。記憶。記憶。

次回執筆著：田中 繁

## 編集後記

黄金色の大地に赤とんぼ、澄んだ高い青空の大学周辺、何と自然いっぱいなのでしょう。「IUHW」9号をお届けします。夏休みが終り、学生の皆さんは第一回の大学祭にむけて全力投球というところでしょうか。盛りあがりの風花祭となりますよう祈ってます。

夏休み後半の臨床実習成果が後期に反映し心身共に磨かれ、ひとまわり肥える事、期待しています。多くのご投稿ありがとうございました。（福田恵美子）